

# 藤原定明の謎解きシリーズ

ヤタガラス

と

ピラミッド

- 1、古代世界の3か所の天文観測所
- 2、地上に描かれた2つの三角形は、  
世界の天文観測所の設計図だった
- 3、日本の天文観測所と設計者  
(天文観測所の設計者は「星の暗号者」  
秘密結社ヤタガラスだった)

# 1、古代世界の3か所の天文観測所

## ◆秘密結社ヤタガラスの「星の暗号」の暗号装置

- ・日本の「大和三山」
- ・エジプトの「三大ピラミッド」
- ・メキシコの「マヤカレンダー」

➡日本とエジプトとメキシコを舞台にした暗号

➡古代の、日本とエジプトとメキシコのつながりを示す

証拠を探していた

◆注目したのがエジプトの「大ピラミッド」とメキシコの  
「太陽のピラミッド」の位置関係と共通点



エジプトのピラミッド



メキシコのピラミッド

◆エジプトの「大ピラミッド」

「北緯 $29^{\circ} 58'$  東経 $31^{\circ} 08'$ 」⇒**ほぼ北緯 $30^{\circ}$**

(緯度経度はウィキペディア百科事典より)

◆メキシコの「太陽のピラミッド」

「北緯 $19^{\circ} 41'$  西経 $98^{\circ} 50'$ 」⇒**ほぼ北緯 $20^{\circ}$**

◆2つのピラミッドの**経度の開き**

「 $31、08 + 98、50 = 129、58$ 」⇒**ほとんど $130^{\circ}$**

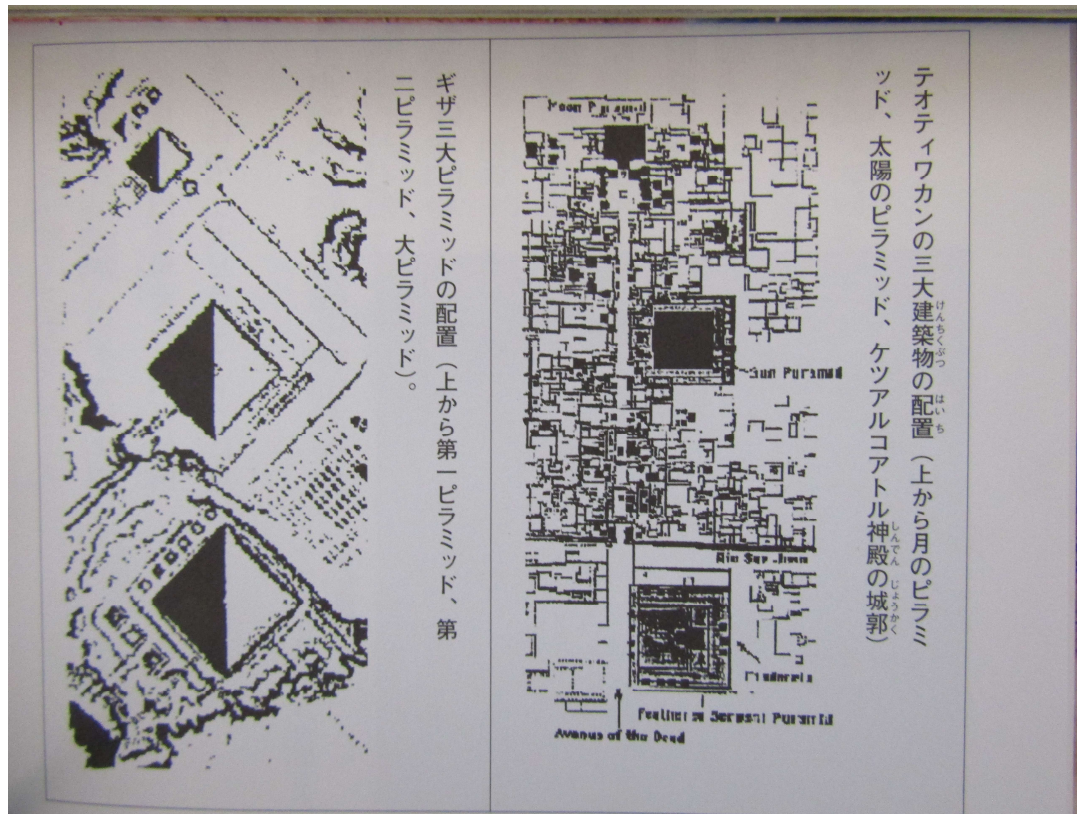
## ◆2つのピラミッドの共通点

### エジプトの「大ピラミッド」

- ・エジプトのピラミッドは天文観測や測地拠点として、**最適な場所を選んで**建造された(計量学者のステキーニ)
- ・「三大ピラミッド」は BC10450年の「**オリオン三星**」を再現
- ・「大ピラミッド」の高さ  $\times 2\pi =$  周辺長さ  
(「大ピラミッド」の高さ(146、7メートル)と周辺(921、44メートル)の比率は、円の半径と円周の比率と同じ  $2\pi$ )
- ・「大ピラミッド」の周辺長さ  $\times 43200 =$  地球の赤道周囲の長さ  
(『神々の指紋』 グラハム・ハンコック 翔泳社)

## メキシコの「太陽のピラミッド」

- ・テオティワカンのピラミッド群は「**天空の地図**」  
(ブルックリン芸術科学研究所の文化人類学部長スタズベリー・ハガー)
- ・「ケツアルコアトルのピラミッド」を太陽に仮定すると、周りのピラミッド群は惑星や小惑星の軌道に位置し、**太陽系を正確に縮小したもの**(アメリカの建築技師ヒュー・ハールストン・ジュニア)
- ・「太陽のピラミッド」の高さ  $\times 4\pi =$  周辺長さになる  
(『神々の指紋』 グラハム・ハンコック 翔泳社)



大ピラミッドの底辺の長さ=太陽のピラミッドの底辺の長さ

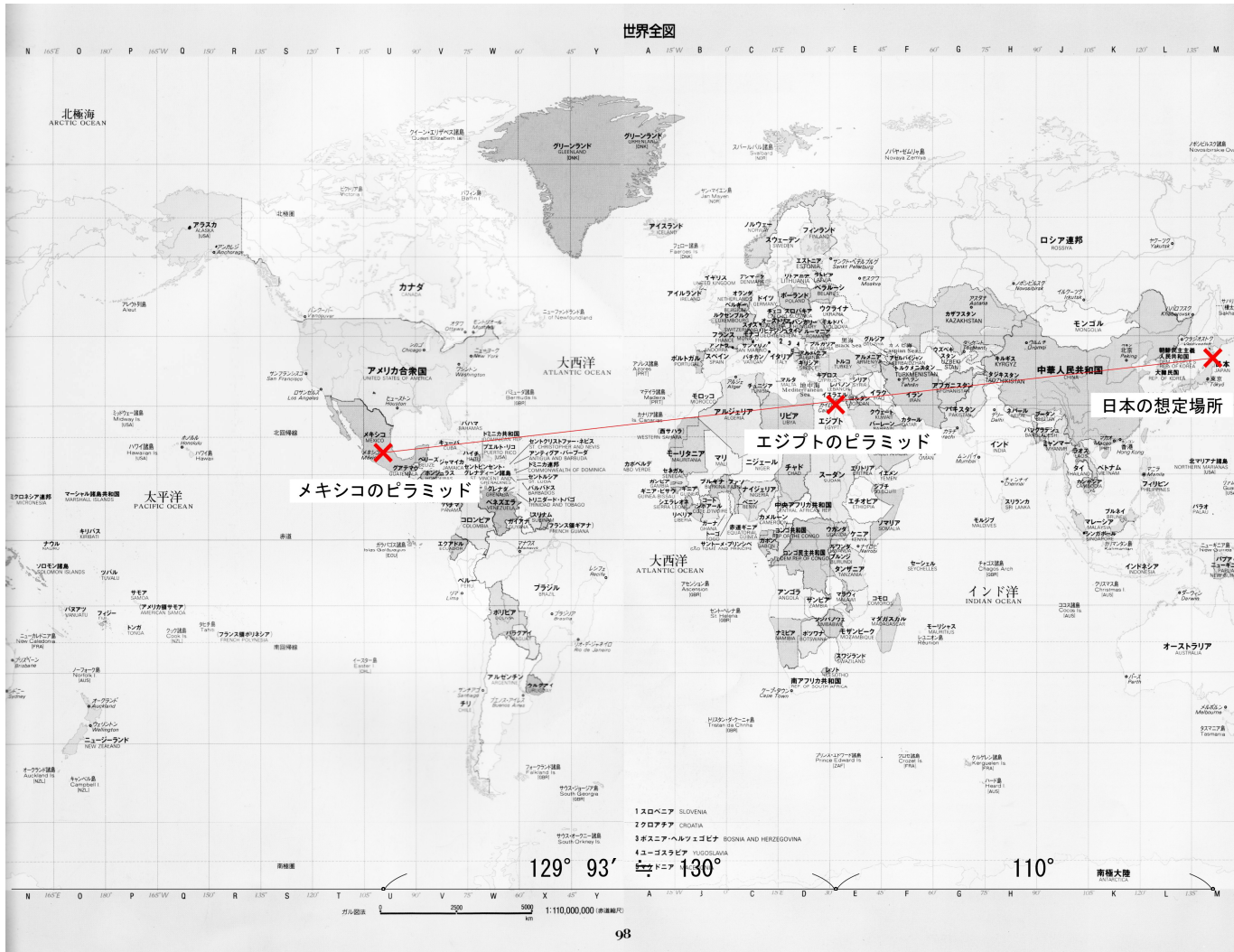
(ひかえ壁の残存物を入れる) (『大ピラミッドは宇宙からの遺産か?』南山宏 岩崎書店 アメリカの建築技師ヒュー・ハールストン・ジュニアの研究)

## 〈解説〉

- ・2つのピラミッドは、ともに「天体図」を設計図にし「 $\pi$ 」の原理が使用されている
  - ・3つのピラミッドの配置がほぼ同じ
  - ・大ピラミッドと太陽のピラミッドの底辺は同じ長さ
- ➡両者には偶然とは考えられない、位置関係と共通点がある

〈仮説〉

両者は**天文観測所**として、**同じ設計者**によって  
計画的に設計され、この2つのピラミッドに対応して、  
**日本にも**（想定場所＝北緯40°）天文観測所が設置  
されたのではないか！？

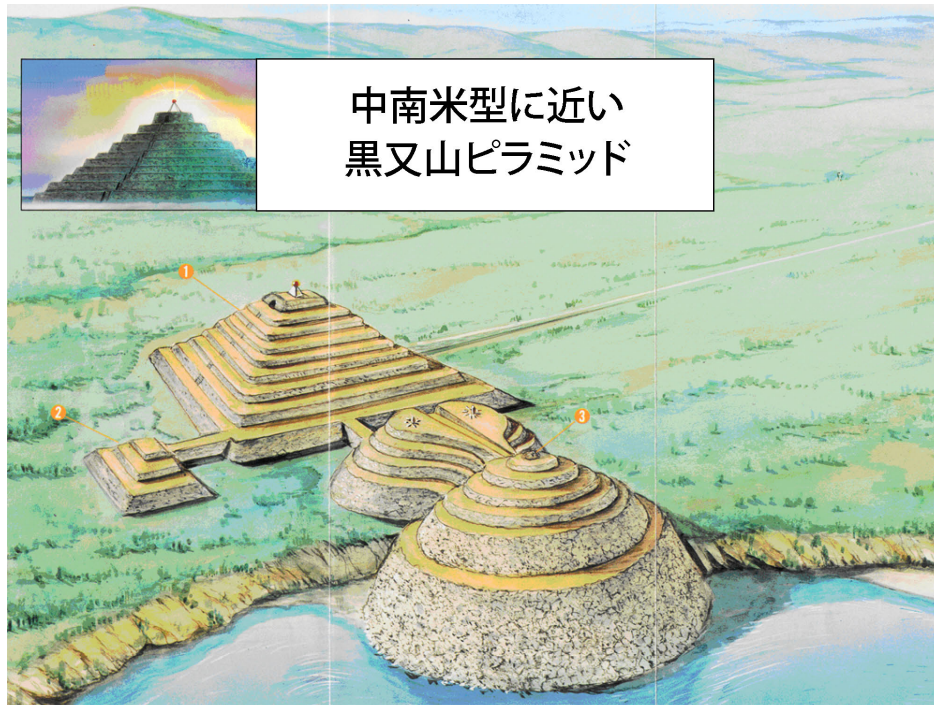


くろまんた  
◆「黒又山ピラミッド」(想定場所の日本のピラミッド?)

かづの  
秋田県鹿角市十和田大湯地区中通台地にある、標高280、6メートルの円錐形の山。大湯環状列石(縄文時代の遺跡)の近く

「環太平洋学会」を中心に岩石学、地質学、考古学、文化人類学、神道民族学、古代岩刻文様学などの専門家が、赤外線レーザービームやGPSなどハイテク技術を使用し、平成3年から4年間の調査の結果

➡ピラミッドであることが証明された



(『日本ピラミッドの謎』 鈴木旭 学研 より)

## 〈参考〉

### クロマンタ

・「クル・マクタ・キンタ」が「クロマンタ」に変化し、その文字に漢字の当て字をつけて、黒又山と表記した

➡アイヌ語の「クル」(神、普通でない人)

「マクタ」(野)

「キンタ」(山)

➡「普通でない**神のような人**がつくった、**平野の中の山**」  
を意味する

## ◆黒又山の位置

・「北緯 $40^{\circ} 17' 01''$  東経 $140^{\circ} 49' 17''$ 」

(緯度経度はウィキペディア百科事典より)

・エジプトのピラミッドとの経度差

$140^{\circ} 49' - 31^{\circ} 08' = 109^{\circ} 41'$  ……ほぼ $110^{\circ}$

・エジプトとメキシコのピラミッドの経度差……………ほぼ $130^{\circ}$

・日本とエジプトのピラミッドの経度差……………ほぼ $110^{\circ}$

・日本とメキシコのピラミッドの経度差……………ほぼ $120^{\circ}$

※「計画的な経度差」を $110^{\circ}$  と $120^{\circ}$  と $130^{\circ}$  と仮定すると、「黒又山ピラミッド」を計画的な天文観測所と断定するには精度的に問題がある

〈仮説〉

エジプトの大ピラミッドと経度差が $110^\circ$ により近い場所に、天文観測所があったのではないか？

その場所は

エジプトの大ピラミッド＝東経 $31^\circ 08'$

$31,08 + 110 = 141,08$

＝「北緯 $40^\circ$  東経 $141^\circ 08'$ 」

2、地上に描かれた2つの三角形は、  
世界の天文観測所の設計図だった

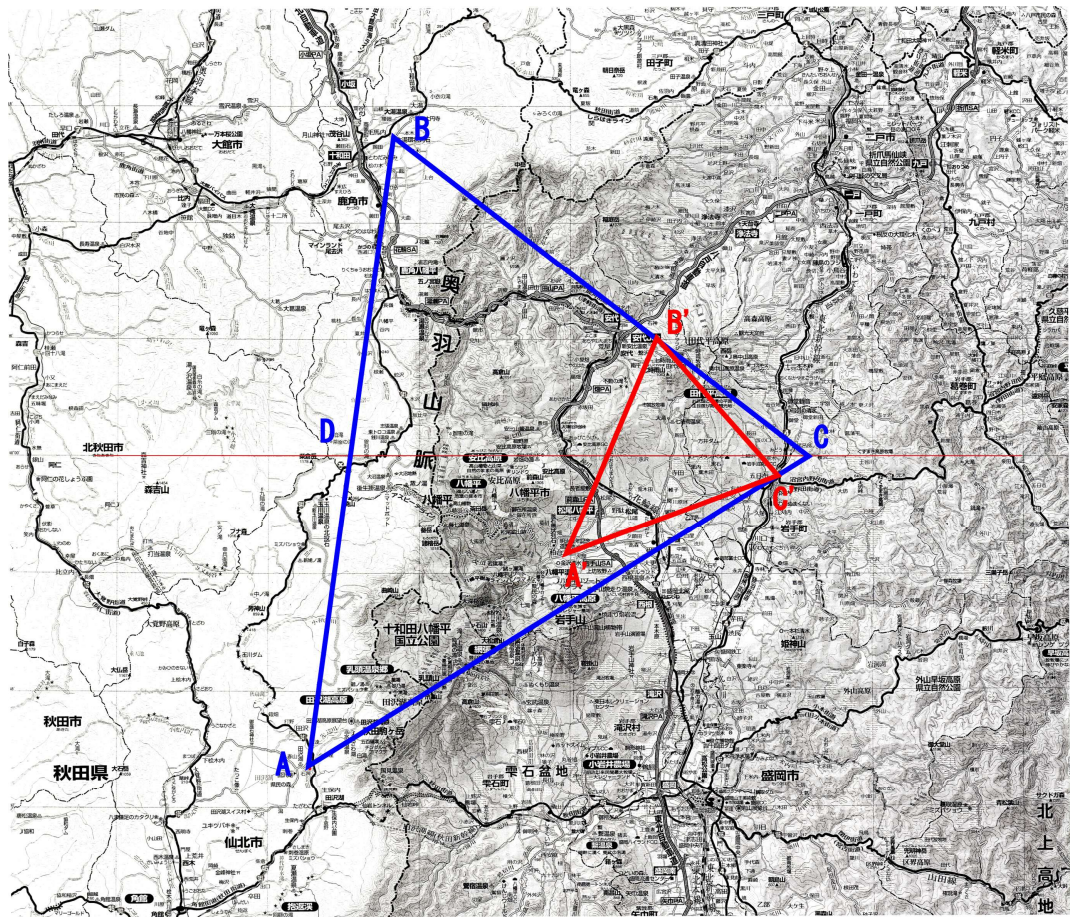
## ◆2つの謎の三角形

「北緯 $40^\circ$  東経 $141^\circ 08'$ 」の周辺に

50度・60度・70度の角度の三角形が2つできる

➡この三角形は、世界の計画的な天文観測所の平面図

(設計図)だった！！



A = 石神(田沢湖)

B = 大湯環状列石

A' = 釜石環状列石

B' = 石神(安代町)

C' = 石神(岩手町)

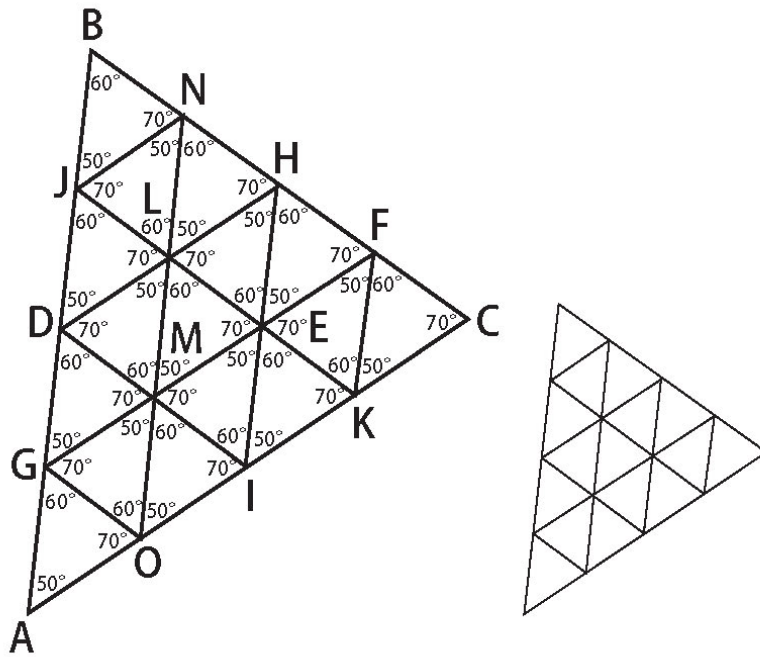
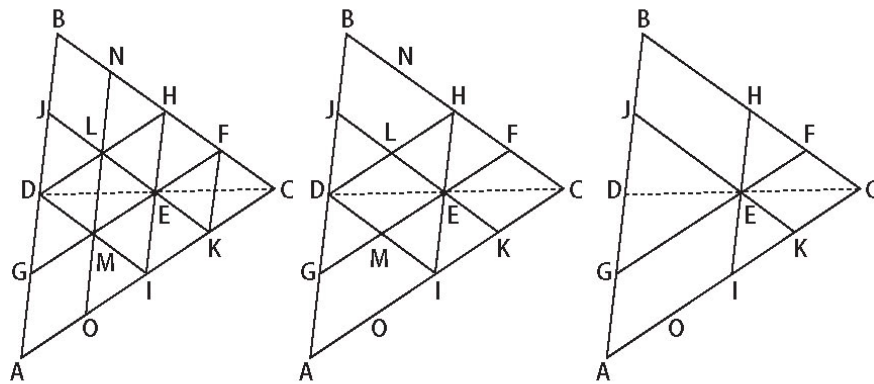
線CD = ほぼ北緯40°  
ライン

# 大湯環状列石(縄文時代後期 約4000年前)

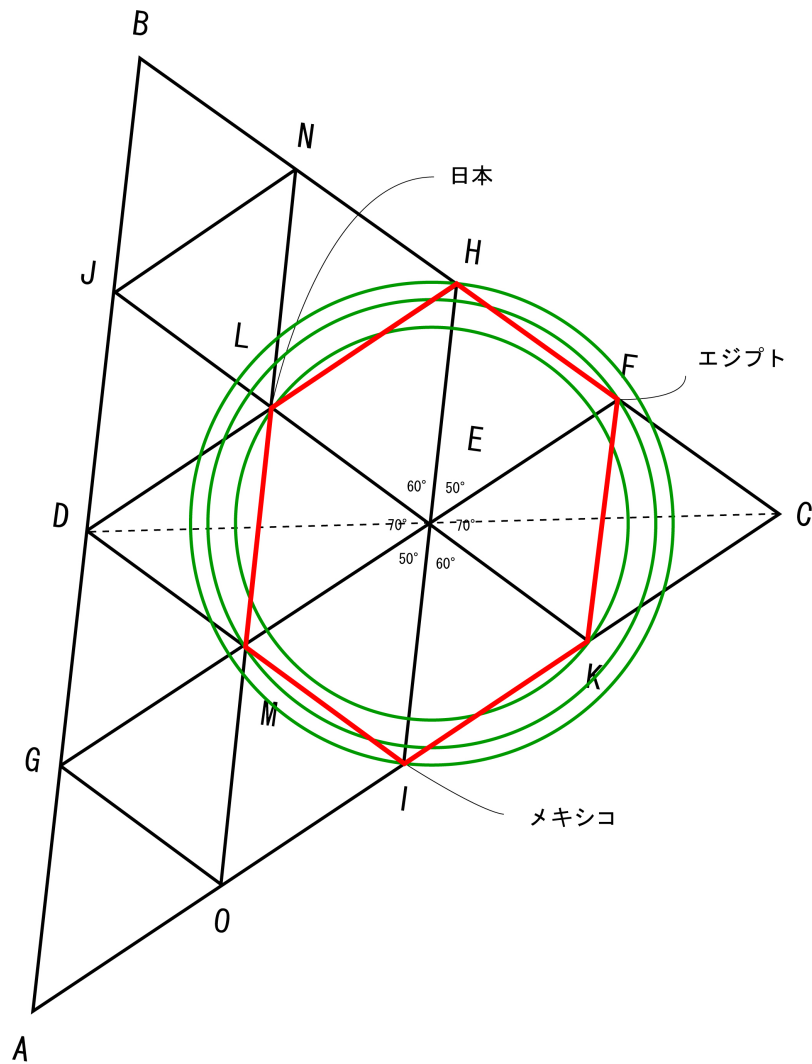


# 釜石環狀列石









エジプト～日本=110度

日本～メキシコ=120度

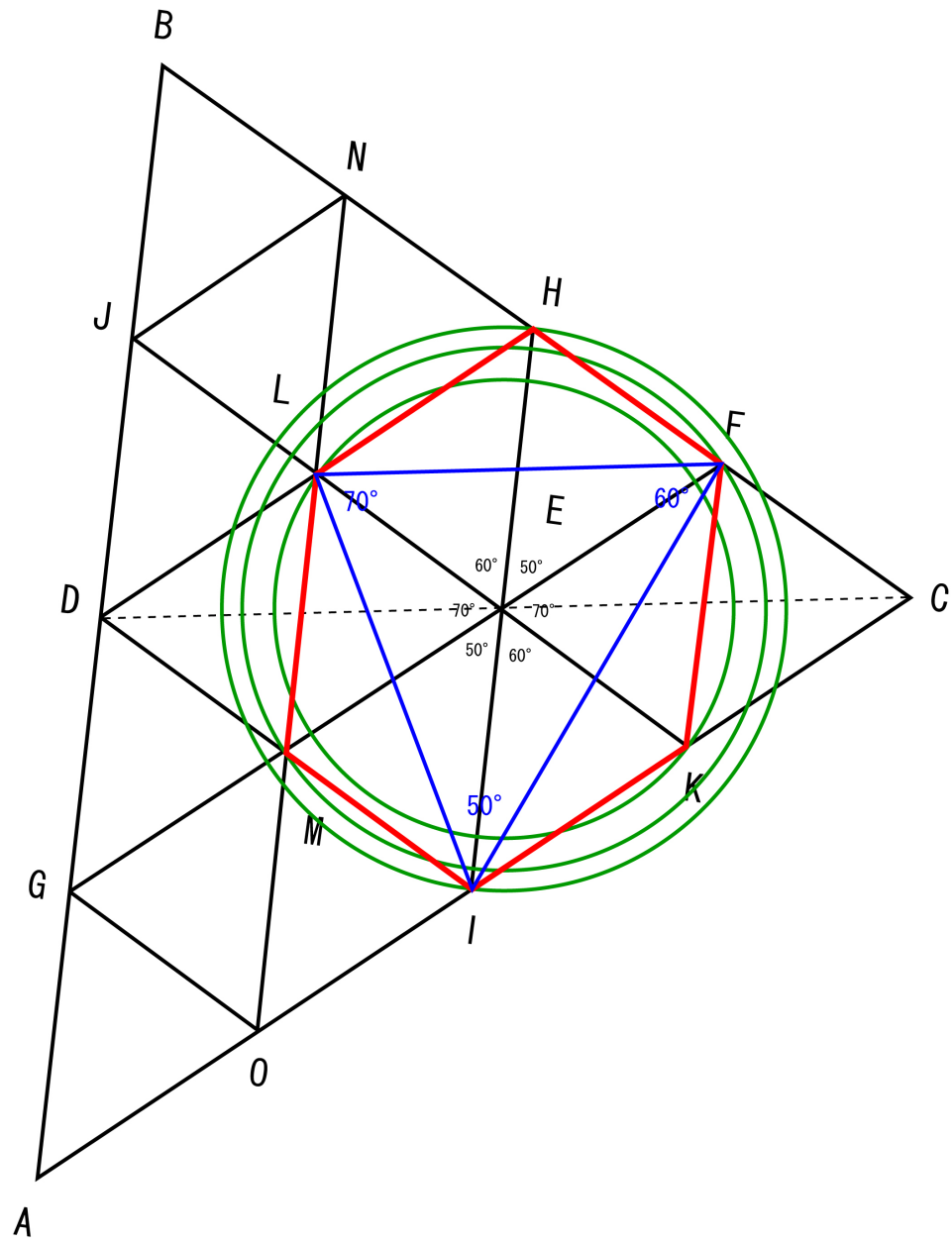
メキシコ～エジプト=130度

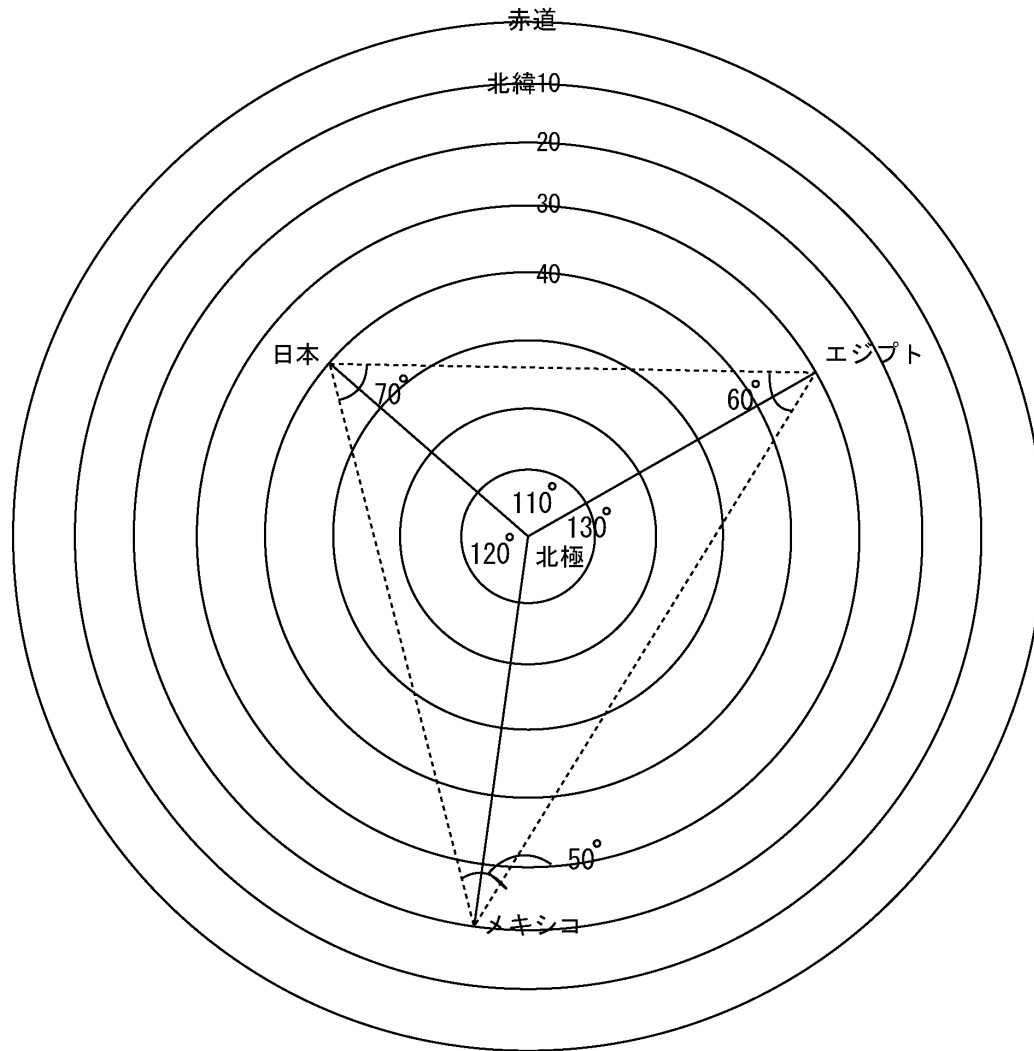


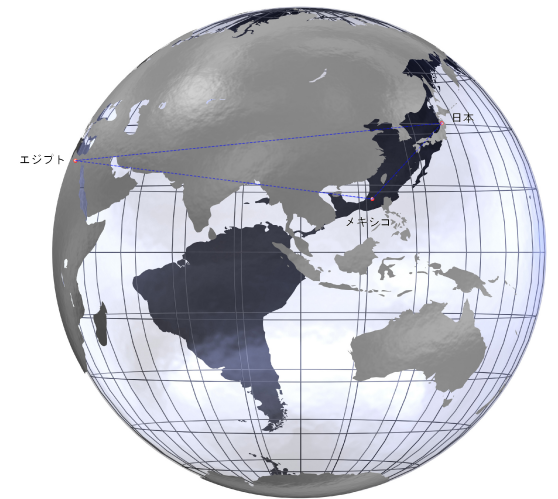
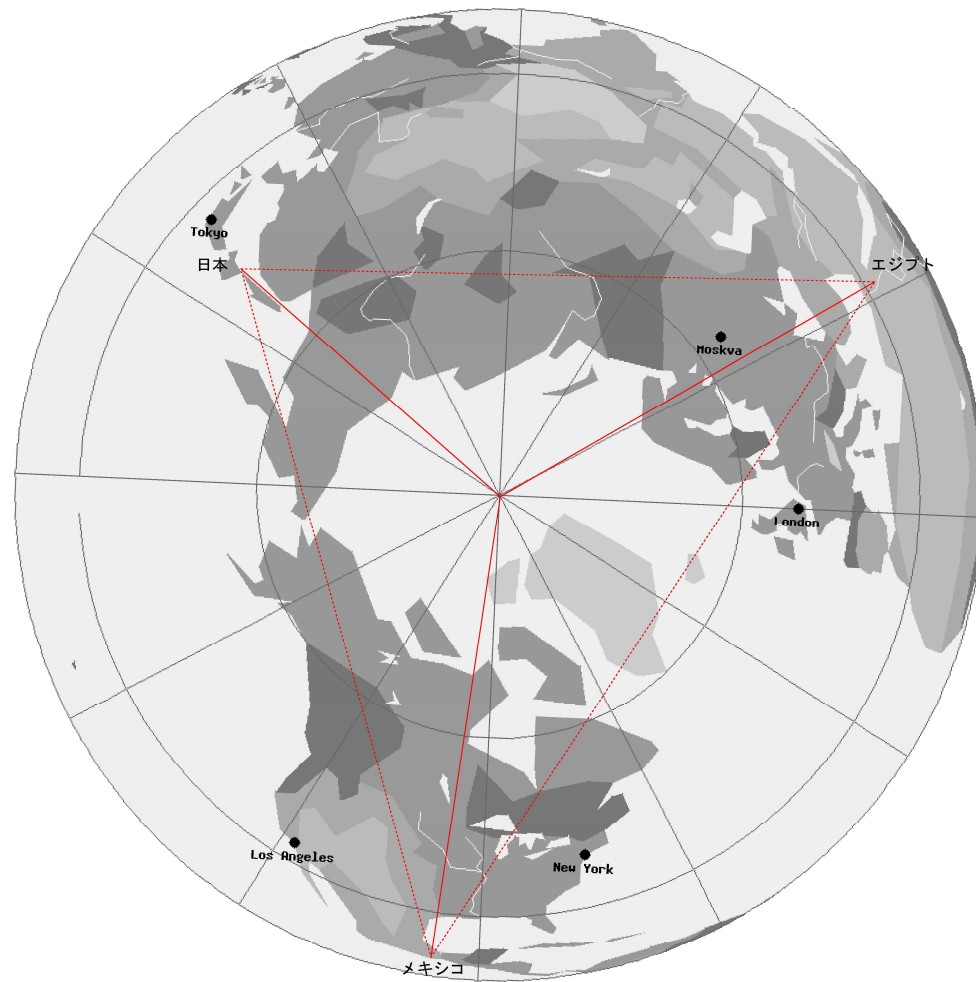
角度＝経度の開き

なんと

日本とエジプトとメキシコの想定点を結ぶと  
同じ「50度・60度・70度の三角形」になる





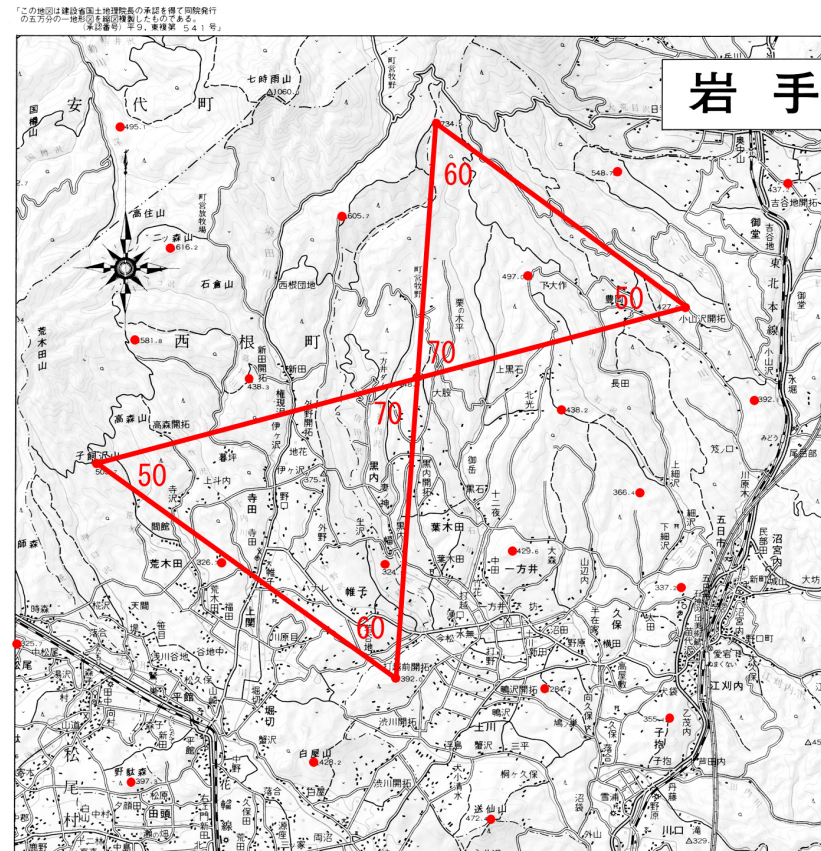
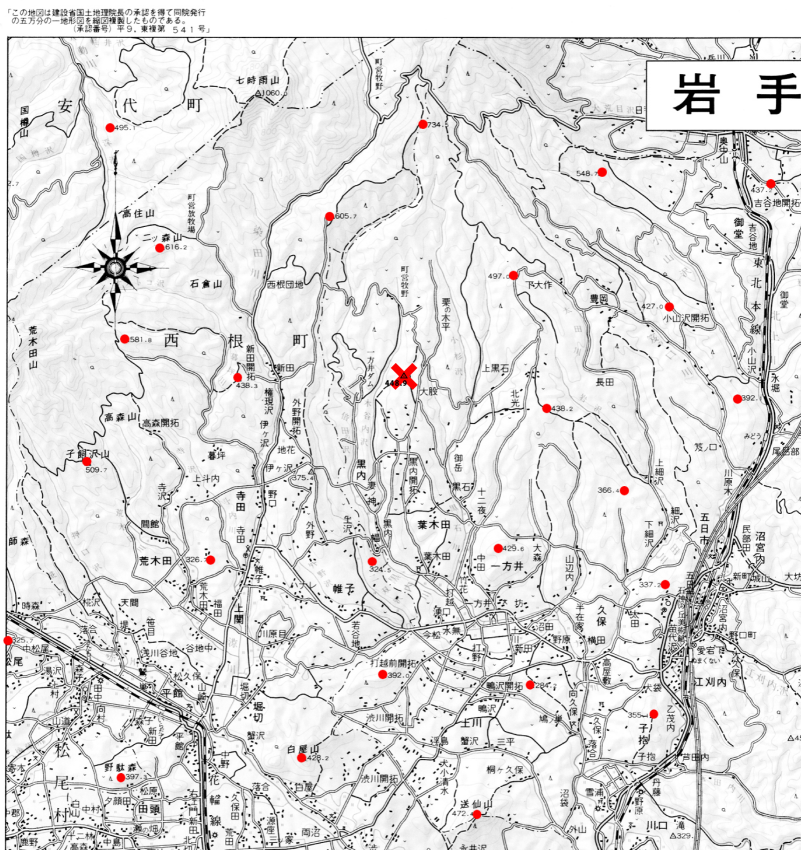


### 3、日本の天文観測所と設計者

(天文観測所の設計者は「星の暗号者」  
秘密結社ヤタガラスだった)

# ◆「設計図の三角形」と想定場所

岩手町管内図に示された想定場所



## ◆ 周辺の地名と想定場所

周辺の地名も、想定場所を示唆している

おおまた

「大股」(問題の場所)

「股」=「またぐら」という言葉がある様に、「1つの<sup>もと</sup>本から2つ  
以上に分かれ開いているところ」を意味する

アイヌ語辞典

「オウヌ」=「つがう 2つの物が組み合う」ことを意味する

※交点の場所は、2つの三角形が組み合う、<sup>もと</sup>本の場所

➡2つの三角形の関係を、そのままあらわしている

いっかたい

一方位(南西)

アイヌ語 「カタ」=「上」 「イ」=「ところ」

➡一方位「一番、(緯度の)上の(高い)ところ」という意味

➡仮説の日本の天文観測所は、一番緯度の高いところに位置する

「黒内(クロナイ)」(南南西)

クロ・・・アイヌ語の「クル」からの転化

「クル」=「普通でない神のような人」

「ナイ」=「水ぎわや沼地」

➡水の豊富な所で、「神のような人々」が暮らしていた

## ◆想定場所の緯度と経度

「北緯40° 00′ 東経141° 09′ 」

「北緯40° 東経141° 08′ 」(仮説の想定場所)

と、ほとんど一致！！

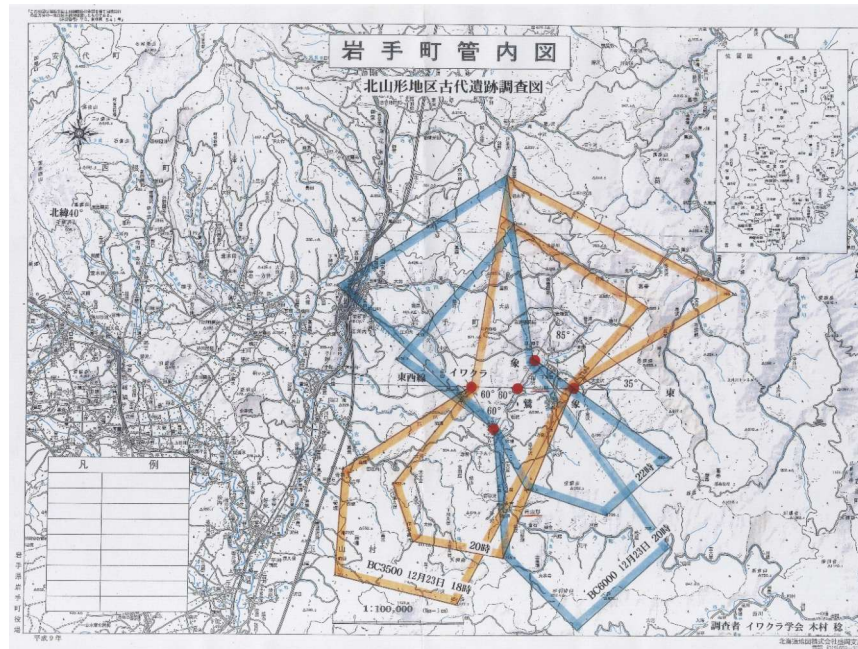
## ◆エジプトのピラミッドとの経度差

$141^{\circ} 09' - 31^{\circ} 08' (\text{エジプト}) = 110^{\circ} 1'$

⇒ほとんど110°

# ◆岩手町に描かれた4つのオリオン座

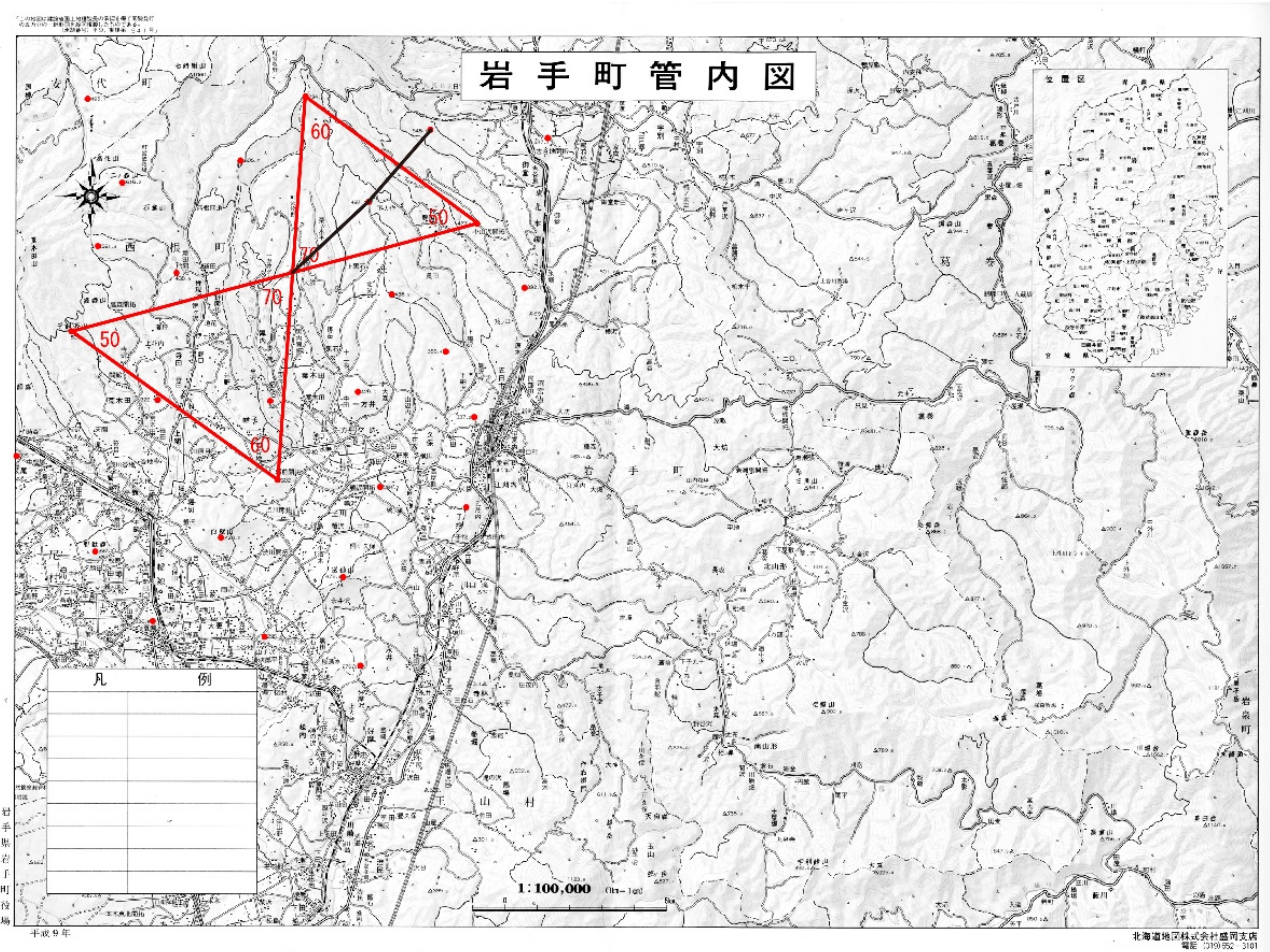
(木村稔氏の発見)

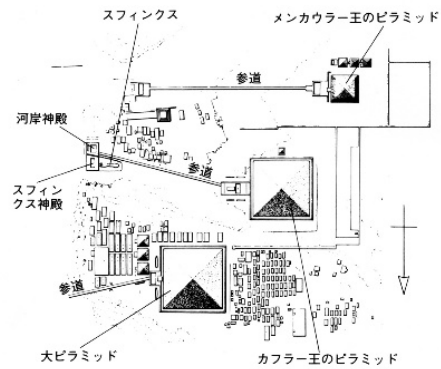
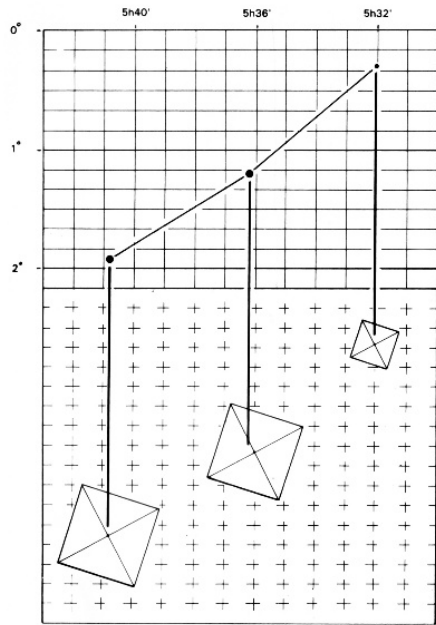


BC6000年12月23日の20時と23時

BC3500年12月23日の18時と20時

# ◆再現されたエジプトの三大ピラミッド





ギザ・ネクロポリスの配置

